

平成 30 年度中学校武道授業（相撲）指導法研究事業



受け身の指導例「ゆりかごの受け身」の練習

平成 30 年度中学校武道授業（相撲）指導法研究事業（主催＝日本武道館・日本相撲連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁・静岡県教育委員会・焼津市教育委員会）は 6 月 18・19 日、静岡県焼津市立港中学校で研究者 8 名が集まって行われた。本事業は今年度 2 回の実施予定で、1 回目の今回は授業視察、全国相撲指導者研修会の内容検討を中心に行われた。

□1 日目（6 月 18 日）

開講式では、はじめに安井和男日本相撲連盟専務理事が主催者を代表して「焼津市は名選手を多く輩出し、女子の世界チャンピオンを 3 名出すなど、女子の育成に関して全国一番です。今回は授業視察を行い、どのように全国相撲指導者研修会に生かしていくかが肝になります。実りのある研究事業にしていきたい」と挨拶をした。

次に、松尾貴之日本武道館振興課長が挨拶に立ち、「相撲は誰もが見たことのある、なじみ深い競技です。相撲経験のない先生に対して、いかに関心を高めていくかが課題です。授業視察、研究により、相撲授業が充実できるよう、日本武道館も力を尽くしていきたいと思っております」と述べた。

開講式の後、下村勝彦研究者（静岡県相撲連盟会長）より焼津市の相撲の現状について説明があった。焼津市は明治時代から漁業が盛んで、市民には漁師気質が強くある。漁師は浜で魚を揚げながら、暇があると相撲を取っていたことが、相撲が地域に根付いた理由の一つと考えられる。

焼津市内の中学校では 9 校のうち 5 校が相撲授業や相撲教室を行っている。相撲授業を行った先生が、異動先でも取り入れ、静岡県内に広がっている。タブレットを活用し、生徒が主体的に取り組む授業を行うなど、工夫した授業展開も見られる。また、年に 1 回、市内の小学生を対象とした相撲大会の開催や、保育園や幼稚園での指導や大会の開催など、子供たちへの相撲の普及に力を入れている。相撲は費用負担が少ないことや、行政の理解が得られやすいことから、静岡県では普及が進んでいる、との説明があった。

11 月に開催予定の全国相撲指導者研修会の内容検討を行った後、焼津市立港中学校の松浦みな美教諭より、翌日の授業内容について説明があった。同校では、武道が必修となった平成 24 年に相撲を採用したが、教員の異動により、相撲の授業は途絶えていた。しかし、現役の相撲選手である松浦教諭が 3 年前に赴任したことをきっかけに、再び相撲を授業に取り入れることとなった。授業は体育館で体操マット・簡易まわしを使って行っている。

□2 日目（6 月 19 日）

視察授業は 2 時間で、どちらも 2 年生（各 27 名）の 8 時間授業のうち、4 時間目であった。半分の生徒は 1 年次に相撲授業を経験しており、半分は初心者である。本時は相手のバランスを崩す動きである、上手出し投げを練習し、相手の崩し方を知ることを課題とした。

準備運動の後、相撲の基本動作である四股、塵浄水ちりちようず、すり足そんきよ、蹲踞、受け身を行った。その後、上手出し投げの見本を動画で確認。また、大相撲で決まった上手出し投げも動画で紹介した。本時の上手出し投げは、一人が右手を相手の肩に置き、もう一人が左手で相手のひじをつかみ、他方の手はまわしを持つ。右手を肩に置く人が右足を引きながら、左手を押し出して相手を崩す技として指導した。

2人一組での技の練習では、松浦教諭より互いに力を入れることが、うまくいくポイントとの指摘があった。六つのグループに分かれ、2人が技を練習し、残りの人はどうしたらうまく崩せるのか、不利な体勢とはどんなときなのか、などの気付きをアドバイスし合った。練習の途中でコツをつかんだ生徒がいれば、全員を集めて披露した。中には松浦教諭を相手に技を仕掛けることを希望する生徒もあり、生徒たちの相撲授業に対する積極的な姿勢が見られた。授業の最後には、どんなときに技がうまくかけられたか、気付きを発表し、「相手が体重をかけてきたときに引く」「軸足をコンパスのように回す」「膝を曲げて姿勢を低くする」といった意見が出た。

授業視察終了後、授業の振り返りを行った。

○浦嶋三郎研究者

マットの取っ手が出ていたが、生徒が自主的に直しており、安全性に配慮していた。また、生徒が互いに助言する様子が多く見られた。

○桑森真介まさすけ研究者

教員は安全面について常にリスクを背負っていることを忘れず、万が一事故が起こったときにも十分説明ができるよう、配慮が必要である。



基本動作すり足



上手出し投げの練習



松浦教諭に技を仕掛ける生徒

○安藤均研究者

ゆりかごの受け身の練習は繰り返し行うことで、転倒の際の危険回避につながる。また、上手出し投げは横に崩す動きであるため、頭を打つ危険性が少なく、安全な指導ができる。

○堀内弥わたる研究者

塵浄水ちりちようずで女子生徒も恥ずかしがらずにしっかりとできていた。礼法について、技の練習で礼を一回一回行うのは時間のロスになる。どのタイミングで礼をさせるのか工夫が必要だろう。

○上村裕一かみむら研究者

私は中腰を意識させた相撲授業を行っているが、松浦教諭はバランスの崩し合いを大事にしている。中腰は生徒が苦痛に感じるため、バランスという観点から、生徒が無理なくできる指導法と感じた。

○村田安啓研究者

大相撲の動画が、生徒の興味を引き出すのにうまく使われていた。手本となるスロー動画は、生徒がわからなくなったときにすぐに見られるよう、授業中流したままにできるとより効果的である。

その後、全国研修会の内容検討、最後に閉講式を行い、全日程を終了した。